



生涯学習センターだより

2025. 8. 28 (木) 2025 年度第 1 号 (8 月号、通巻 43 号)

発行: 秋田県生涯学習センター

ご挨拶

所長 金子 淳



秋田県生涯学習センターは、県民一人ひとりの「学びたい」という思いに寄り添いながら、地域や社会の課題解決につながる生涯学習や社会教育の推進に取り組んでいます。

近年は特に「障害者の生涯学習」に関する調査研究と実践支援に力を入れています。市町村や特別支援学校、企業・支援団体と連携・協働し、誰もが共に学べる「場づくり」のモデルとなる活動を進めており、センター内に設置した「ツドウベース」もその一つです。

また、「地域のつながりづくり」「家庭教育の支援」「防災」など、現代的な課題に対応した研修を実施しています。市町村からの要請によるオーダーメイド型社会教育主事派遣事業も年々充実しています。

こうした取組は、大学や民間、自治体など多様な主体との「連携・協働」を基盤としており、今後も学びの可能性を広げてまいります。

誰もが安心して学び続けられる社会の実現に向け、センター一同努めてまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

「東京2025デフリンピック応援イベントinあきた」にて

6月22日(日)、秋田市拠点センターアルヴェの1階きらめき広場で開催された「東京2025デフリンピック応援イベントinあきた」において、当センターがモルック体験ブースを担当しました。

職員の1人が手話の勉強をしていることから、応援イベントの主管である一般社団法人秋田県聴力障害者協会様とのつながりが生まれ、今年の2月に、協会の事業の一環としてモルックを体験していただいたことをきっかけに、今回の体験ブースを担当する運びとなりました。

イベント当日は、聴者・ろう者を問わず多くの方々に足を運んでいただき、ブースは大盛況。会場の中でも一際大きな歓声があがり、みんなが笑顔でモルックを楽しんでいました。一緒にブースを担当してくださったろう者や手話通訳士の皆さんのご協力もあって、実際に体験された方々は164人にのばりました。

センター職員にとっても、共生社会の実現を見据える上で、非常に意義のあるイベント参加となりました。



会場の様子

モルックを通して交流を深めました！！

7月6日に「モルック」を通して交流を深める「モルック体験交流会」を行いました。障害の有無にかかわらず、誰もが共に楽しむことができるように、生涯学習センターで手作りした紙製モルックを使用したり、点数計算アプリを使用したりし、参加者に合わせ、工夫しながらの開催となりました。

ゲームでは、当日に初めて会った参加者同士でチームを編成しゲームを行いました。モルックを通してすぐに打ち解け合い、ゲーム中や休憩時間に楽しそうに会話をしている場面も多く見られました。

また、あきたWith(※)からは道具や賞品等の提供で参画していただき盛大な交流会となりました。

※あきたWith:秋田県生涯学習センターの学習活動の趣旨に賛同した
県内企業 38 社で構成された非営利任意団体



スキットルをよく見て、
モルックを投てき!!



ナイスプレイにはチームに
関係なくみんなで拍手!



室内でできるようにロール紙
の芯を材料としたモルック

北海道・東北5道県生涯学習センター等研修交流会（7月24日・25日）

令和7年度北海道・東北5道県生涯学習センター等研修交流会が秋田県で開催されました。この交流会は、北海道と東北地方の生涯学習センター等の職員が集まり、各地域の課題や取組を共有し、学び合うことを目的としています。秋田県での開催は令和元年度以来で、研修は2日間にわたって行われました。

1日目の研修では、参加者が「アルクベ・イウベ・キクベin ALVE」という体験活動に取り組みました。この活動の目的は車椅子利用者の視点でミッションをクリアしながら、様々な経験を通して少数派の立場を理解することでした。例えば、エレベーターを探したり、トイレを利用する際に補助や配慮が必要になったりする場面に直面しました。参加者は、この活動を通して、普段意識しない状況での困難さや、周囲の人々からの心遣いについて気付き、他者への配慮や協力の重要性を体験的に学びました。

2日目は「持続可能な地域づくりの実現のために、私たちができること」をテーマに「熟議」を行いました。「会話を楽しむ」「否定せずに受け止める」「みんなが話せるように」「テーマを忘れずに」などのマナーが提示され、「熟議」はメンバーを入れ替えながら、3つのラウンドにわたって自由闊達な話し合いが行われました。参加者は一番心に残ったキーワードを示し、最終的に「自分に何ができるか」を考え、共有しました。

この交流会は、当初は「4道県」で始まり、後に山形が加わって現在の形になった経緯が説明されました。このような研修会を通じて、参加者同士の情報交換が活発になり、お互いの研修内容を共有したり、講師として招聘したりするなど、5道県の連携が深まっていることが紹介されました。研修のまとめでは、社会教育における「場づくり」と「つながりづくり」の重要性が強調され、「社会教育主事の三原則」として「NOを言わない」「友達の友達はみな友達」「こだわりをもたない」が挙げられました。

最後に、次期開催県である山形県の担当者から、今回の研修に対して感謝が述べられるとともに、来年度は山形らしさを活かした研修を開催したいという抱負が語られました。



研修の様子